

四之宮 11 月号 公民館だより

平塚市四之宮3-20-26

電話 55-0655

FAX 54-8255

ホームページは

地図は
こちら→



平塚市立四之宮公民館 と検索

地域の情報は **四之宮ふれあい便り** と検索



正月飾り教室



新年は、手作りの正月飾りで気分一新、
最高のスタートを切りましょう！

日時：12月22日(金) 午後2時から

参加費：おひとり 1,400円(予定) ※当日に徴収します

講師：川島 栄作 様

定員：20名(先着順)

申込み：55-0655 (四之宮公民館)

四之宮公民館共催・平塚市健康課委託事業

再掲

「高血圧を予防しよう！」

～主食・主菜・副菜のそろった食事～ (講師：平塚市食生活改善推進団体)

日時 11月30日(木) 10時から13時

場所 四之宮公民館 調理室

持ち物 エプロン、三角きん、ふきん(食器拭き用)

定員 20人(先着)

参加費 500円(当日集金)

献立 雑穀米ごはん、にらツナチーズ春巻き、ピーマンとじゃことクルミのきんぴら
わかめスープ、フルーツのはちみつマリネ

申込み 四之宮公民館(電話55-0655、または公民館へ直接)(キャンセルは3日前まで)

問合せ 健康課 栄養士 電話：55-2111

♪健康課 管理栄養士の
ためになるミニ講話付き♪

※従事者はマスクを着用させていただきます。

公民館 大掃除

日時：12月3日(日) 午前9時開始

新しい年から、気持ちよく公民館が利用できるよう、
利用団体の皆様のご協力をお願いいたします。



♪子育てるんるん♪

日時：11月20日(月)10:00～11:30

場所：四之宮公民館 集会室

内容：保育所の先生と遊ぼう

みどり保育所の先生が、手遊び歌や絵本の読み聞かせなどをしてくれますよ♪

四之宮地区社会福祉協議会

ふれあいサロン

日時：11月20日(月)13:00～

場所：四之宮公民館 集会室

内容：洋ちゃんとながらしによる歌唱



四之宮地区福祉村からのお知らせ

11月の福祉村は、次のとおり実施します。なお、新型コロナに対しましては、ソーシャルディスタンスを保つことで、3密を回避し活動を行います。

開村日：毎週 月・火・水・土曜日（祝日は休村）

場所：公民館 いこい室

開村時間：AM 10:00～12:00 PM 1:00～3:00

TEL：55-0750

手芸

11/6・13・20・27
いずれも(月)AM

ゴム体操・コグニサイズ

11/1・8・15・22・29
いずれも(水)PM

歌声サロン(三味線)

11/21(火)PM

小中学生への学習支援

11/4・11・18・25
いずれも(土)AM

11月サロンのご紹介

スカットボール

11/21(火)AM

臨床美術

11/1・22
いずれも(水)AM

園芸クラブ

11/14・28
いずれも(火)AM

吹矢

11/6・27
9:30～
いずれも(月)

囲碁ボール

11/8・15・29
いずれも(水)AM

お茶席をたしなむ会

11/6(月)PM
12月はお休みします

四之宮まめ知識「四之宮 あれそればなし その11」 記事提供：四之宮郷土史同好会

それがよると西南方向に黒い雲が立ち上り、雷鳴が響き、やがて大量の降灰のため江戸の町が昼間でも暗くなったとの事です。

江戸時代中期の政治家で学者の新井白石は、この時の噴火の様子を自叙伝に記していました。

皆さんは富士山が火山だという事をご存知でしたか？ そうなんです。江戸時代の宝永四年（1707）11月に富士山が大噴火を起こし、関東一円に膨大な量の火山灰を降り積もらせたそうです。その時の様子が色々な形で記録に残されていますので、ご紹介しましょう。

平塚市金目からの富士 この美しい姿が
変わらぬ事を願いつつ、
(2021年12月18日 撮影)



富士山が噴火したら
どうなるの？
いつも変わらず美しくたたずむ富士山。

僅か49日前に宝永東海・南海地震と呼ばれるマグニチュード8.9クラスと推定される巨大地震が発生し、東海から四国にかけて大きな被害が発生したばかりだったのです。そこに、この富士山大噴火が追い打ちをかける様に発生したため、壊滅的な被災状況であったものと想像されます。(注1)

富士山の噴火活動は半月ほど続き、その間に排出された噴出物の総量は、およそ7億立方メートルと推定されています。これを幅50m、深さ2mの100mプールで量ると、7万杯に相当する膨大な量になります。当時の北金目村では25m前後の火山灰が降り積もったそうです。(注2)

また、新町の構之内遺跡では、溝状遺構が30cmほどの宝永火山灰層が確認されているとの事です。(注2)

宝永大噴火によって降り注いだ膨大な火山灰は関東一円の農業や日々の生活に莫大なダメージを与え、その回復には長い時間を要したと思われま。生産基盤である田んぼに積もった灰の除去には数年を要したため、その間の年貢が免除されたという事例や、田畑



火山のスコリア

の回復が遅れ、深刻な飢饉に陥ったという事例、或いは幕府の援助が遅れた地域では農民一揆が発生したという記録もある様です。一方、山野に積もった火山灰が河川に流入し、中・下流部の川床を上昇させた結果、河川の氾濫が頻繁に起こるといった二次的災害が、金目川や玉川、鈴川などで記録されています。この地域では田畑の復旧作業で余力が無いため、幕府が西日本の大名に川浚普請かわせうらひんを命じた事が記録に残されています。(注3)

なお、生活、特に健康面で特筆すべき事項として、微細な火山灰の空中浮遊により、関東一円で呼吸器疾患の大流行が記録されており、留意すべきと思われま。もつひとつ余談ですが、皆さんがお盆の砂盛りに使う富士砂は、この宝永噴火で積もった火山灰を採取したものだそうです。

四之宮郷土史同好会
ホームページ
「双六バーコード」です。

〈参考文献〉
(注1) 「神奈川県史」
(注2) 「平塚市史」
(注3) 「天災地異」 平塚市博物館